

4 (3) 校内研究推進計画

令和8年度研究の概要

1 研究主題

自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成
～自己の考えを広げ深める『対話的な学び』を通して～

2 研究主題設定の理由

近年、子供たちを取り巻く環境は、グローバル化が進展し続け、多様化が進んでいる。また、急速な情報化や技術革新は私たちの生活を質的にも変化させている。この流れは今後も加速するものと見られ、将来を予測することが困難な時代を生きる子供たちにどんな力を付けていくのかが問われている。こうした課題に対応していくには、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力を育成する道徳教育が大きな役割を果たすと考える。

本校では、長年にわたる道徳教育の研究を継承し、令和5年度から「自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成 ～自ら考え、表現する道徳教育を通して～」を研究主題として、自分づくり部、仲間づくり部、学びづくり部の3つの部を構成して取り組んできた。昨年度から、学年部と指導部（自分づくり部、仲間づくり部、学びづくり部）を構成して取り組んでいる。

学年部では、昨年度に引き続き、道徳科の授業研究に取り組む。今年度は特に、児童自身が「自分事」として問題意識をもち、本時のねらいに迫ることができるような「中心発問」の工夫や、自己の考えを広げ深めることができるよう『対話的な学び』についての手立ての工夫を重点とし、指導方法を模索していきたいと考える。

自分づくり部では、昨年度は、自分のよさに気づき、積極的に表現する児童を目指して、自己肯定感や自己表現力を高める日常活動の充実に取り組んだ。「心タイム」では、同学年、異学年の児童間でのよさ見つけの活動やグループエンカウンターを行った。また、自己肯定感を高める活動として、自慢大会やスターシールの活用を行った。その結果、自己肯定感の向上や自信をもって積極的に表現しようとする態度が育ってきた。今年度も継続して取り組み、さらに児童の自己肯定感を高める活動を取り入れていきたいと考える。

仲間づくり部では、昨年度、友達と互いに理解し助け合う児童を目指して、体験活動の充実に取り組んだ。体験を行う前に目標を考えさせることで、目標をもって体験活動に取り組ませ、自分や友達の良さ、これからの生活に活かしたいことをふり返らせた。また、異学年交流や人権・平和教育の推進に取り組んだ。これらの取り組みが、いろいろな人との関わりの中で、互いを思いやる心や命を大切にすることを育むことにつながった。今年度も、体験活動による児童の成長や良さが承認される場を設け、さらに体験活動を充実させていきたいと考える。

学びづくり部では、昨年度、特色ある教育活動についての取り組みや、キャリア教育について取り組んだ。これらの活動を通して、自ら考え表現する児童の育成を目指して、自己表現力を高める活動を取り入れた。その結果、ふるさとのよさに気付いたり、自分や友達のよさに気付いたりすることができた。今年度は、これらの活動を主体的に考え表現（行動）する児童の育成を目指して、主体性や自己表現力を高める活動を取り入れていきたいと考える。

以上のように、今年度は昨年度の成果を継承しつつ、それぞれの部で課題を解決しながら学校教育全体を通して計画的・発展的な道徳教育を行うことで、研究主題に迫りたいと考える。

3 道徳教育の重点目標

- 自他の生命を尊重することができる。【生命の尊さ】
- 感謝と思いやりの心で接することができる。【親切、思いやり】
- 目標を立てて最後までやり抜くことができる。【希望と勇気、努力と強い意志】

4 研究の目標

自他のよさを認め合い、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』を通して、よりよく生きようとする児童の育成について研究する。

5 研究で目指す児童の姿

学年部

- 自他のよさを認め合い『対話的な学び』を通して自己の考えを広げ深めることができる子供

指導部

自分づくり部

- 自分のよさに気づき、よりよい生き方について考えることができる子供

仲間づくり部

- 友達と互いに理解し合い、共に助け合う子供

学びづくり部

- 積極的に活動に参加し、主体的に考え、表現（行動）することができる子供

6 研究の内容と方法

学年部

- 自他のよさを認め合い、『対話的な学び』を通して自己の考えを広げ深めることができる道徳の時間の充実
 - ・ 児童自身が「自分事」として問題意識をもち、本時のねらいに迫ることができるような「中心発問」の工夫
 - ・ 「自己の考えを広げ深める『対話的な学び』」繋がる話し合い活動の充実
 - ・ 個に応じた手立ての工夫（特別支援教育）
 - ・ 道徳教育全体計画、学年年間計画（教科等との関連指導）
 - ・ 道徳教育別葉の活用

指導部

自分づくり部

- 自己肯定感や自己表現力を高める日常活動の充実
 - ・ 心タイムの計画、実施（ぽかぽかカード・心の木カード・構成的エンカウンター）
 - ・ 自慢大会の計画・スターシールの活用
 - ・ Q U、心アンケート、道徳アンケートなどによる実態把握

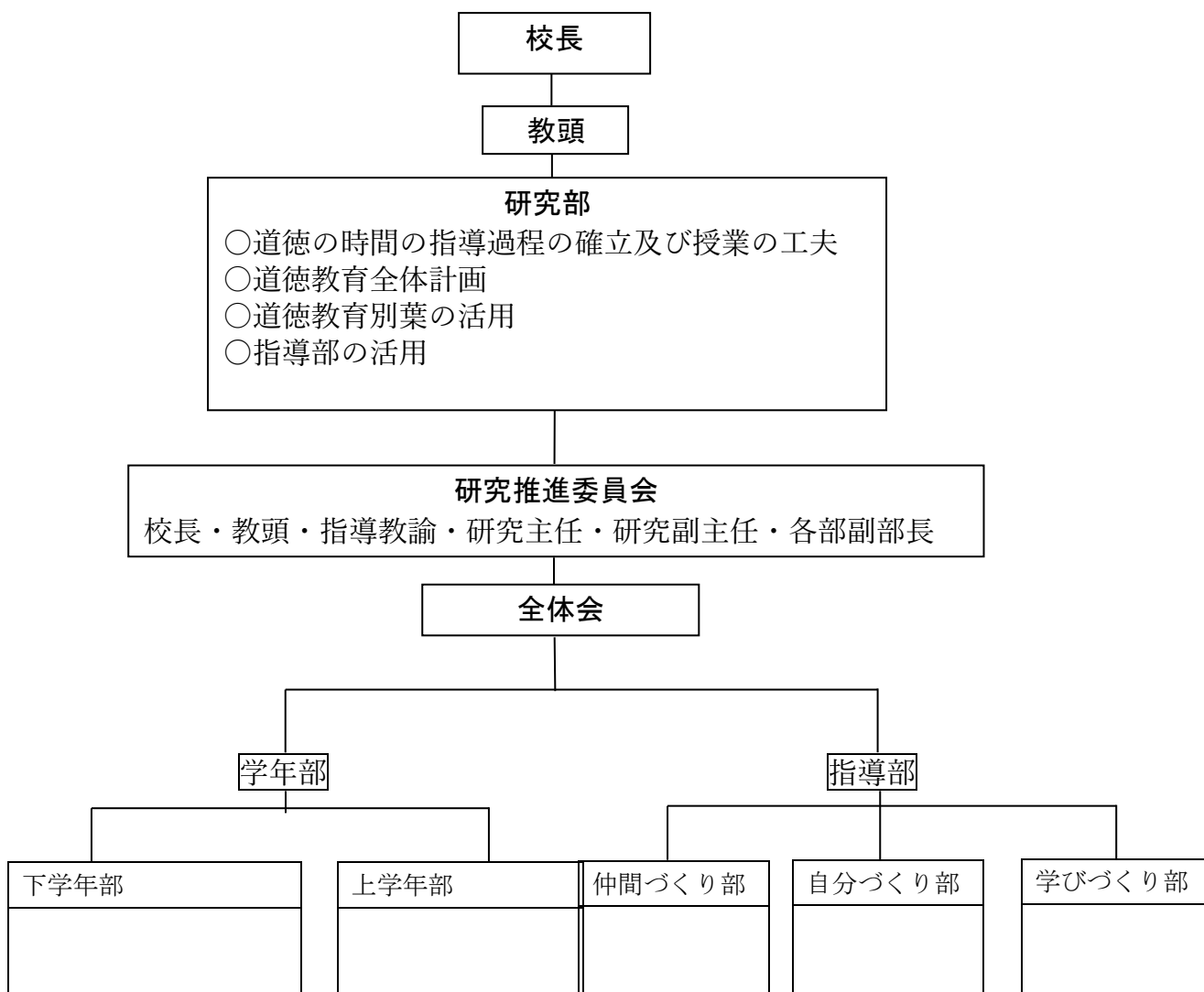
仲間づくり部

- 道徳性を育む豊かな体験活動の充実
 - ・ たてわりによる異学年交流活動（たてわり班対抗遊び）
 - ・ 人権・平和集会・児童集会
 - ・ 行事等のふり返りの場の設定
 - ・ ボランティア活動

学びづくり部

- 主体的に考え、表現（行動）する活動の充実
 - ・ 次郎とのふれあい集会（劇・出し物）、次郎とのふれあい遠足（6年生ガイド）
 - ・ キャリア教育・マナー検定
 - ・ 読書郵便

7 研究の組織



8 研究の日程（案）

月 日 (曜)	会議名	内 容 (概要)
4 月 6 日 (月)	第1回研究推進委員会	校内研究の概要と内容及び組織作りについて
4 月 20 日 (月)	第1回校内研究会	全体会：校内研究の方法と内容及び組織についての提案 部会：研究の内容及び方法についての話し合い 学年部会：役割分担決め
5 月 20 日 (水)	第2回校内研究会	全体会：各部からの取り組み提案 指導案の形式提案 学年部会：研究授業日程の検討 年間指導計画の見直し
6 月 10 日 (水)	第2回研究推進委員会	各部からの取り組み報告 校内研究の方法と内容、新たな取り組みについて提案
7 月 1 日 (水)	第3回校内研究会	第1回授業研究会 (グループ研) 年 組
7 月 8 日 (水)	第4回校内研究会	第2回授業研究会 (グループ研) 年 組

7月 下旬	第5回校内研究会	道徳教育研修会 講師東部教育事務所指導主事
9月 9日 (水)	第6回校内研究会	第3回授業研究会 (全体研) 年 組 指導助言：東部教育事務所指導主事
10月 14日 (水)	第7回校内研究会	第4回授業研究会 (グループ研) 年 組
11月 11日 (水)	第8回校内研究会	第5回授業研究会 (全体研) 年 組 指導助言：東部教育事務所指導主事
12月 9日 (水)	第9回校内研究会	第6回授業研究会 (グループ研) 年 組
12月 下旬	第3回研究推進委員会	研究紀要について 研究のまとめについて
1月 13日 (水)	第10回校内研究会	部会：研究の成果と課題について
2月 4日 (木)	第4回研究推進委員会	研究の成果と課題を振り返り、来年度の計画を立てる
2月 10日 (水)	第11回校内研究会	全体会：今年度をふり振り返り、来年度の計画を話し合う

令和8年度 道徳教育全体計画

千代田東部小学校

児童の実態 ・純朴で真面目である。 ・上級生が下級生の面倒をよく見る。 ・表現することがやや苦手である。
--

教師の願い ・進んで善い行いができる子ども ・思いやりのある子ども ・善悪の判断ができる子ども

保護者の願い ・素直で思いやりのある子ども ・善悪の判断ができる子ども ・だれにでも挨拶ができる子ども

児童の道徳性 ・温和で、言われたことは最後までやり遂げる。 ・動植物をかわいがる。 ・地区ごとの結びつきが強く、郷土愛に富む。

各教科における道徳教育

国語	話し合う活動を通して言語表現の充実を図りながら、相手の考えや立場を尊重し、望ましい人間関係をつくらうとする態度を養う。
社会	社会生活の理解を深め、公的資質の基礎を養い我が国や地域社会に対する誇りと愛情を育てる。
算数	数学的活動を通して、自立的に考え、友達と学び合い、自己肯定感や望ましい人間関係を作らうとする態度を育てる。
生活	具体的な活動や体験を通して、自立の基礎を養う。
音楽	音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質や能力を育成する中で、道徳性の基盤となる豊かな情操を養う。
図工	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。
家庭	家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
体育	健康増進と体力の向上を図り、明るく楽しい生活を営む態度を育てる。集団でのゲームを通してきまりを守る。
外国語	外国語を通して、言語や文化について体験的理解を深める。

総合的な学習の時間の道徳教育 よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質と能力を育成する。
--

本校教育目標 「渾身勉強」「白鳥蘆花に入る」 「夢に向かって、気づき・考え・行動する」 児童の育成



道徳教育の目標(研究主題) 自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成 ～自ら考え、表現する道徳教育を通して～
--



道徳教育の全体目標(重点目標) ○自他の生命を尊重することができる。 [生命の尊さ] ○感謝と思いやりの心で接することができる。 [親切、思いやり] ○目標を立てて最後までやりぬくことができる。 [希望と勇気、努力と強い意志]
--

めざす子ども像(学年重点目標)

下学年 ○ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切に子ども。 ○ 相手のことを思いやり、進んで親切にする子ども。 ○ 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く子ども。

上学年 ○ 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する子ども。 ○ 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を立てて親切にする子ども。 ○ より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力をして物事をやり抜く子ども。
--



道徳科の指導方針 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
--

家庭との連携 ・学校便り「白鳥」 ・学び通信 ・保健便り ・図書館便り ・ホームページ

地域との連携 ・地区懇談会 ・道徳授業参観(ふれあい道徳) ・読書ボランティアによる読みきかせ ・PTA 主催行事
--

・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・県教育委員会の基本の方針 ・神崎市教育委員会の基本方針

学習指導要領 1 自己の生き方を考え、 2 主体的な判断の下に行動し、 3 自律した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
--

日常活動における道徳教育 ・「神崎市4か条の誓い」 ・心タイム 「ぼかぼかカード、心の木カード」 ・構成的グループエンカウンター

特別活動における道徳教育 学級活動 友だちのよさを認め合い仲良く助け合う態度を育成するとともに、互いの意見を尊重する態度を養う。 児童会活動 学校生活の諸問題を話し合い、協力して解決しようとする自主性を養う。また、他学年との交流を通して、縦のつながりによる心のふれあいを深めさせる。 クラブ活動 共通の興味関心をもとに、互いに協力し、追及する活動を通して、活動する楽しさや喜びを味わわせながら、自主的・自発的な態度を育てる。 学校行事 集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を通して、自己存在の喜びを味わわせる。

人権同和教育 現実を正しく認識し、人権に対する正しいものの見方、考え方、行動の仕方を育てる。
--

生徒指導 児童に社会生活におけるよりよいマナーを身に付けさせ、充実した生活を送らせる。
